

平成31年度 公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー事業計画

はじめに

平成30年の福岡空港・博多港の外国人入国者数は、初めて300万人を突破し、7年連続で過去最高を更新した。また、アジア太平洋地域における高度道路交通システム推進活動最大のイベントである「第16回アジア太平洋地域ITSフォーラム」や「第35回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」をはじめとした大型MICEも開催され、国際観光・コンベンション都市福岡としての知名度及びブランド力は、着実に確立されてきていると考えられる。

平成31年度においても、「G20財務大臣・中央銀行総裁会議」（6月）、「ラグビーワールドカップ2019」（9月）などの開催が予定され、世界各国から多くの来福者が見込まれている。

当財団においては、観光案内の拡充や着地型観光の振興、受入環境の充実など、質の高いおもてなしを推進し、来福者の満足度向上、リピーターの増加を図るとともに、MICEワンストップ体制を強化し、福岡への観光客・MICEの誘致・支援の中心組織としての役割を推進していく。

新規事業★、拡充事業☆

()内は前年度予算額

1 福岡の魅力づくり 72,591千円(64,417千円)

(1) 観光案内・観光客の利便性向上

エリア観光の充実等により、来福者が快適に過ごせる受入環境の整備に努め、満足度向上を図る。

① 観光情報の提供、発信

- ア 観光案内所において観光情報・サービスの提供
- ☆イ 福岡市公式シティガイド「よかなび」を通して、観光スポット、ツアー、祭り、イベント、グルメ等の観光情報を提供（フランス語追加）
- ウ フェイスブック等のSNSを活用したリアルタイムな情報発信
- エ 財団ホームページにおいて観光ガイドブックを提供

② まち歩き観光振興事業

- ア 福岡市観光案内ボランティアガイドの運営
- イ 福岡・博多の歴史資源を活用したまち歩きの定着化及び新規コースの作成等

③ 語学ボランティア「ウエルカムサポーター」の運営

- ☆ア 中央ふ頭クルーズセンター内や箱崎ふ頭岸壁にて観光案内を実施
- イ 国際コンベンション等開催時の支援（通訳、案内、誘導業務等）
- ウ 福岡の歴史と文化・接遇に関する研修の実施

④ 受入環境の充実

- ア 福岡おもてなし委員会の運営
(構成団体：主要観光施設、交通機関、金融機関、宿泊業界等29団体)
- イ 福岡観光ガイドブックの発行
- ウ 観光マップ「福岡・博多の観光地図です」の発行

エ 観光サービス業従事者等を対象に、福岡の歴史・文化に関する研修実施

(2) 福岡市の魅力増進

福岡市の歴史・文化・祭りなどの観光資源を活用した魅力づくりを推進し、来福者の満足度向上を図る。

① 博多どんたくの共催

- ア 博多どんたくの運営参画（福岡市・福岡商工会議所・当財団）
- イ 臨時インフォメーションを設置し、来福者への観光案内等を実施

② 博多祇園山笠助成及び集団山見せ、追い山の共催

- ア 博多祇園山笠への助成
- イ 博多祇園山笠振興会や福岡市との共催による、集団山見せ・追い山での沿道警備の実施

③ 着地型観光の振興

- ☆ア インバウンド向けの着地型（体験型）観光商品の造成・実施
- イ 三の丸スクエア内「舞遊の館」の管理・運営 など

④ 福岡検定の実施

- ア 福岡・博多の魅力をより広く、より深く知ることで、市民のおもてなし力を醸成するため、福岡市・福岡商工会議所との共催による「福岡検定」を実施

⑤ 各種行事への助成

- ア 博多伝統芸能振興会、博多おくんち実行委員会、博多仁和加振興会、博多座船乗り込み 他

⑥ 観光土産品の普及・促進

- ア 福岡県観光土産品公正取引協議会事務局業務の受託

2 観光客の誘致・受入 13,101千円（8,644千円）

(1) 観光客誘致事業

福岡市への観光客の増加を図るため、国内外に広く福岡の魅力を発信し誘致する。

① 国内誘致宣伝事業

- ア 博多祇園山笠宣伝隊の派遣事業
- イ 修学旅行誘致活動
- ウ ツーリズムEXPOジャパン2019 出展

② 国外誘致宣伝事業

- ア アジアにおける旅行博への参加
- イ 現地旅行会社、企業訪問等によるセールス活動

③ 「福岡ブランド」の発信

- ア 海外メディア取材受入による観光情報の発信
- イ 福岡観光ガイドブック及び観光マップの制作・発行(再掲)
- ウ 当財団ホームページ及び「よかなび」, SNSによる観光情報の発信 (再掲)

(2) クルーズ客船受入事業

① クルーズ船観光客への観光情報の提供

- ☆ア 中央ふ頭クルーズセンター内や箱崎ふ頭岸壁にて観光案内を実施 (再掲)
- イ ラグジュアリー船寄港時, 市役所での観光案内を実施

② 歓迎演出の実施

- ☆ア 外国クルーズ客船の初寄港やインセンティブツアー寄港時に歓迎演出の実施
(和太鼓演奏や「福岡おもてなし武将隊」出演など)

(3) G20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議・ラグビーワールドカップ2019の訪問客受入事業

★① G20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議関連事業

- ア 会議会場での観光案内の実施 など

★② ラグビーワールドカップ2019おもてなし事業

- ア インバウンド向けの観光コンテンツの開発 など

(4) 多様な連携

① 観光団体等との連携

- ア 九州各都市や広域観光関係団体等との情報交換, 連携
※関係観光団体: 九州観光推進機構, 九州主要都市観光協会連絡協議会, 福岡県観光連盟, 福岡地区観光協議会 他

② 在福岡外国公館等との連携

- ア 在福の総領事館や貿易事務所等との交流を通じた, 観光客の誘客・送客の促進

③ 観光関係企業・団体等との連携

- ア 賛助会員等の観光関係企業と連携した観光客受入環境の充実, ビジネス機会の創出

3 MICE・海外インバウンドツアーの誘致・支援 …………… 101,639千円
(92,728千円)

【誘致目標】

- ICCA案件 46件 (前年目標比+3件)
- 国内コンベンション 73件 (前年目標比+3件) ※1,000名以上案件
- インセンティブツアー 8,300名 (前年目標比+300名)

(1) 国内外セールス活動

MICEの推進を専門的にワンストップで行う「Meeting Place Fukuoka」(MPF)がこれまでに構築したネットワークを最大限に活かし、国内外セールス活動に取り組む。

① 国内セールス活動

- ☆ア 大学との連携強化(九州大学内にMPFの出張所開設など)
- イ 首都圏セールス
- ウ MICE主催者等招聘

② 海外セールス活動

- ア ICCA(国際会議協会)会合・国際MICE見本市・商談会への参加
- イ 海外キーパーソンへのセールス

③ 体制

- ア 福岡市MICEアンバサダーとの連携
- イ 福岡市・福岡コンベンションセンター・MPFの三者共同営業

(2) MICEワンストップ体制の運営

ワンストップコーディネート機能を活かし、福岡市のMICE受入環境の向上を図る。

① 大型MICE開催サポート

- ★ア G20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議関連事業
 - ・「G20YEA」の開催支援
 - ・「G20」を冠したフォーラム(フランス-福岡経済フォーラム)の開催
- ★イ ラグビーワールドカップ2019おもてなし事業
 - ・商店街など地元文化が体感できるイベント開催
 - ・フランス企業と地元企業のビジネスマッチング
- ☆ウ MICEセミナーの開催

② コンベンションの支援

- ☆ア コンベンションコーディネーターの増員
- イ コンベンション開催助成金の交付
- ウ 開催時の支援
(コンベンションバッグ・土産品の販売、歓迎バナー・郷土芸能の提供など)

③ 産業MICEの促進

- ☆ア 在日フランス商工会議所九州デスクとの連携
- イ 国際会議併催の展示会へ地元企業の出展を促進

④ インセンティブツアー等の支援

- ア 福岡空港、博多港での歓迎セレモニーの開催
- イ 郷土芸能の提供 など

⑤ MICE人材育成事業

★ア 学生のMICE業界への興味・関心を喚起するとともに、おもてなしの環境整備

4 広報・宣伝 2,903千円(2,903千円)

(1) 福岡の観光及びMICEに関する情報提供

福岡の観光及びMICEに関する最新の情報や当財団の活動状況等を国内外に積極的に発信し、戦略的な情報発信を推進する。

- ① 財団ホームページ及び「よかなび」による観光情報の発信(再掲)
- ② 国際コンベンション開催実績のICCAホームページ登録
- ③ メディアへの情報提供及び取材の支援
- ④ 機関誌「オーシャンズ・フクオカ」の発行

5 賛助会員へのサービス提供 3,039千円(2,569千円)

(1) 賛助会員相互交流の促進

会員相互の情報交換・交流の場を提供し、訪問客の受入環境の向上とビジネス促進を図る。

(2) 賛助会員名簿の制作

賛助会員企業PRの機会提供と会員間でのネットワーク構築を目的に、賛助会員企業情報を掲載した「賛助会員名簿」を制作し、配付する。

(3) 各種情報の提供

- ① 最新のイベント情報や会員企業からの情報をメールマガジンで配信
- ② MICEや観光関連情報を当財団機関紙及びホームページにて提供

6 組織運営の強化 1,000千円(3,000千円)

(1) 賛助会員維持拡大と自主財源確保への取組み

当財団を資金面で支援頂いている賛助会員の期待に応えるため、広報、広聴を強化するとともに、新たな会員獲得に向けた取組みを強化し、自主財源確保に努める。

(2) マーケティング機能の強化

データに基づく戦略的な事業展開を図るため、各種観光統計・観光情報の収集分析を強化していくとともに、各種アンケート調査等により、観光・MICE誘致の重要性を広く訴求していく。

(3) 観光商品の企画・開発

新たな観光商品を企画・開発し、さらなる観光客等の誘致や来福者へのサービス提供を行う。